

COMPUTER WITH SCHEDULE TABLE FUNCTION

Publication number: JP5324566

Publication date: 1993-12-07

Inventor: SEKIZAKI YUICHI

Applicant: OKI ELECTRIC IND CO LTD

Classification:

- International: **G06F15/02; G06F15/02; (IPC1-7): G06F15/02;
G06F15/02**

- European:

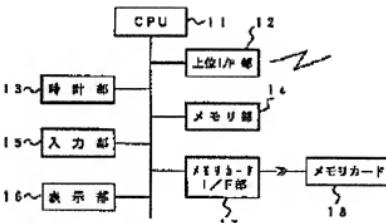
Application number: JP19920131098 19920522

Priority number(s): JP19920131098 19920522

[Report a data error here](#)

Abstract of JP5324566

PURPOSE: To provide the computer with a schedule table function which can process a schedule table on which the time elapses, based on setting (erasure, transfer or pending, etc.) at the time of input, when a power source is turned on. **CONSTITUTION:** When schedule data is inputted by an input part 15, a CPU 11 displays plural menus for processing its schedule data after the designated time on a display part 16, and stores the schedule data in memory part 14, when one menu in plural menus is designated. Also, whenever a power source is turned on, the CPU 11 decides whether the schedule data in which the designates time elapses is stored in the memory part 14 or not, based on the time of a timepiece part 13, and processes its schedule data, based on the designated means, when the schedule data concerned exists.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

Family list1 family member for: **JP5324566**

Derived from 1 application

[Back to JP532](#)**1 COMPUTER WITH SCHEDULE TABLE FUNCTION****Inventor:** SEKIZAKI YUICHI**Applicant:** OKI ELECTRIC IND CO LTD**EC:****IPC:** G06F15/02; G06F15/02; (IPC1-7):
G06F15/02 (+1)**Publication info:** **JP5324566 A** - 1993-12-07Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-324566

(43)公開日 平成5年(1993)12月7日

(51)Int.Cl.⁵
G 0 6 F 15/02識別記号 厅内整理番号
3 5 5 A 9194-5L
3 5 0 A 9194-5L

F I

技術表示箇所

(21)出願番号 特願平4-131098

(22)出願日 平成4年(1992)5月22日

(71)出願人 000000295

沖電気工業株式会社

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号

(72)発明者 関崎 雄一

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 沖電気
工業株式会社内

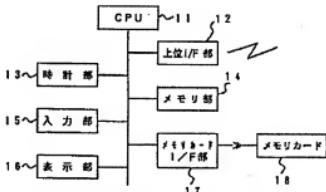
(74)代理人 弁理士 佐々木 宗治 (外3名)

(54)【発明の名称】 予定表機能付きコンピュータ

(57)【要約】

【目的】 電源が投入されたとき、日時の経過した予定期を入力時の設定(消去、転送又は保留等)に基づいて処理できる予定表機能付きコンピュータを得る。

【構成】 CPU11は、入力部15で予定期データが入力されると、その予定期データを指定日時後に処理するための複数のメニューを表示部16に表示し、複数のメニューのうちいずれか一つのメニューが指定されたときに予定期データをメモリ部14に格納する。また、CPU11は、電源が投入される毎に、時計部13に基づいて指定日時の経過した予定期データがメモリ部14に格納されているかどうかを判定し、該当する予定期データがあるときは、指定されたメニューに基づいてその予定期データを処理する。



本発明の一実施例の電子手帳の構造ブロック図

【特許請求の範囲】

【請求項1】 予定日時及び内容の予定データを入力する入力手段と、該入力手段によって入力された予定データを表示する表示手段と、予定データが格納される記憶手段と、日時を計時する計時手段と、予定データが設定されたとき、その予定データを指定日時後に処理するための複数のメニューを前記表示手段に表示するメニュー設定手段と、

前記複数のメニューのうちいずれか一つのメニューが指定されたときに予定データを前記記憶手段に格納する予定データ設定手段と、

電源投入時、前記計時手段の日時に基づいて指定日時の経過した予定データが前記記憶手段に格納されているかどうかを判定し、該当する予定データがあるときは、指定されたメニューに基づいてその予定データを処理する予定データ管理手段とを備えたことを特徴とする予定機能付きコンピュータ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、例えばパソコンコンピュータや電子手帳等に備えられている予定表機能に係わり、さらに詳しくは、メモリ部に格納されている期日の経過した予定表の処理に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、特に電子手帳は、コンパクトで種々の機能を備えているため、多くの者に使用されている。この種の電子手帳に予定表を登録するときは、予定日時や内容(場所)を所定のキーで設定してメモリ部に格納し保存する。また、機種にもよるが、予定の日にちになったとき、又はその何分か前にアラームが鳴るように設定できるものもあり、ユーザーにとっては便利なものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、前記のような従来の電子手帳では、メモリ容量の制約上、期日の経過した予定表に対しては定期的に消去処理をしなければ新しい予定表が登録できないということがあった。このような状態になったときは、期日の経過した予定表を消去してから新しい予定表を登録しなければならないため、操作に手間がかかるという問題があった。機種によっては、期日の経過した予定表を自動的に消去するという機能を備えたものもあるが、予定表入力時、保存したい予定表であった場合には、求めメモリカード等ファイルしておく必要があり、使い勝手が悪いという問題があった。

【0004】また、データの収集、整理、管理を効率的に行う装置(特開平3-158970号公報)や、ファイリング処理のための操作を簡素化した装置(特開昭6

1-15276号公報)があるが、不要のデータの処理に関しては、今までと同様にメモリ部に設定されているファイル名を表示部に表示して、その中から不要のデータのファイル名を選択するという操作を行っていた。

【0005】本発明は、かかる課題を解決するためになされたもので、電源が投入されたとき、日時の経過した予定表を入力時の設定(消去、転送又は保留等)に基づいて処理できる予定表機能付きコンピュータを得ることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明に係る予定表機能付きコンピュータは、予定日時及び内容の予定データを入力する入力手段と、該入力手段によって入力された予定データを表示する表示手段と、予定データが格納される記憶手段と、日時を計時する計時手段と、予定データが設定されたとき、その予定データを指定日時後に処理するための複数のメニューを前記表示手段に表示するメニュー設定手段と、前記複数のメニューのうちいずれか一つのメニューが指定されたときに予定データを前記

20 備手段に格納する予定データ設定手段と、電源投入時、前記計時手段の日時に基づいて指定日時の経過した予定データが前記記憶手段に格納されているかどうかを判定し、該当する予定データがあるときは、指定されたメニューに基づいてその予定データを処理する予定データ管理手段とを備えたものである。

【0007】

【作用】 本発明においては、入力手段で、予定日時及び内容の予定データを入力して表示手段に表示し、その予定データを設定すると、メニュー設定手段は、設定された予定データを指定日時後に処理するための複数のメニューを表示手段に表示する。複数のメニューのうちいずれか一つのメニューを入力手段によって指定すると、予定データ設定手段はその時の予定データを記憶手段に格納する。予定データ管理手段は、電源が投入される毎に、計時手段の日時に基づいて指定日時の経過した予定データが記憶手段に格納されているかどうかを判定し、判定時に該当する予定データが記憶手段に格納されているときは、指定されたメニューの内容に基づいてその予定データを処理する。

【0008】

【実施例】 図1は本発明の一実施例を示す電子手帳の概略ブロック図、図2は電子手帳の外観の一例を示す図、図3は予定表入力時の画面を示す図、図4は予定表に対しての処理メニューの内容を示す画面図、図5はアラーム処理後の予定表の一例を示す画面図、図6はアラーム処理後の予定表に対しての処理メニューの内容を示す画面図、図7及び図8は実施例の動作を説明するためのフローチャートである。

【0009】図1、2において、11はキーボードからなる入力部15の設定に基づいて全体をコントロールす

るCPUで、予定表機能に関しては本発明のメニュー設定手段、予定データ設定手段及び予定データ管理手段の機能を備えている。入力部15によって予定表が作成されたときはその予定表を指定日時後に処理するために例えば削除・転送処理及びアラーム処理のメニューを表示部16に表示し、前記メニューのうちいずれか一つが選択されたときにその予定表をメモリ部14に格納する。

【0010】また、電源投入時、時計部13の日時にに基づいて指定日時の経過した予定表がメモリ部14に格納されているかどうかを判定すると共に、指定日時の経過した予定表に対して設定されているメニューの内容を判定する。予定表に対して削除が設定されているときはメモリ部14から消去し、その予定表に対して転送処理が設定されているときはメモリカード18に転送した後にメモリ部14から消去する。

【0011】さらに、指定日時の経過した予定表に対してアラーム処理が設定されているときは、その予定表を処理するために例えば削除・転送処理及び保留処理のメニューを表示部16に表示し、削除又は転送処理が選択されたときはアラーム処理後の予定表を前記に該当する処理を行い、保留処理が選択されたときはその予定表を更新の日時までアラーム処理としてメモリ部14に格納し保存する。

【0012】12は上位装置とデータの送受信を行うための上位インターフェース部(以下、「上位I/F部」という)、13は時間及び日付を計時する時計部、14は各機能に応じて作成されたプログラムや各種データが格納されているメモリ部で、予定表機能に関しては図7及び図8に示すフローチャートに基いたプログラムが格納されている。

【0013】16は液晶ディスプレイからなる表示部、17はメモリカード・インターフェース部(以下、「メモリカード・I/F部」という)で、アプリケーション及び保存ファイル用のメモリカード18(補助記憶手段)とデータの送受信を行なうためのものである。

【0014】前記のように構成されたものにおいて、予定表機能についてのみの動作を図7及び図8に基づいて説明する。電源を投入すると、CPU11は、まず初期設定をし(S1)、次いでメモリ部14にログインして図9の日時に基づいて判定する(S2)。該当する予定表が格納されているときはステップ7に進むが、格納されていないときはステップ3に進んで入力部15からの予定日時及び内容の入力を待つ。この時、入力部15より予定日時及び内容を図3に示すように入力して設定すると、CPU11は、設定された予定表に対する処理メニュー(図4に示す)を表示部16に表示し(S4)、メニューの指定の有無の判定に入る(S5)。

【0015】図4に示す1のメニューは予定表を予定日時経過後にメモリ部14から消去するためのものであ

り、2のメニューは予定表を予定日時経過後にメモリカード18の指定ファイルに転送させた後にメモリ部14から消去するためのものであり、3のメニューは、予定日時経過後にアラームを鳴らし、アラームを鳴らした後は該当する予定表をアラーム処理後のメニュー(図6に示す)に基づいて処理させるようになっている。また、4のメニューは予定表を指定日(予定日の前)経過後にメモリ部14から消去するためのものであり、5のメニューは予定表を指定日経過後にメモリカード18の指定ファイルに転送させた後にメモリ部14から消去するためのものであり、6のメニューは、指定日時経過後にアラームを鳴らし、アラームを鳴らした後は3のメニューと同様にアラーム処理後のメニュー(図6に示す)に基づいて処理させるようになっている。

【0016】ここで、表示部16に表示された処理メニュー(図4に示す)から例えば2のメニューを選択してファイル名を指定すると、CPU11は、そのメニューに対応するメモリ部14の記憶領域にその予定表を格納し(S6)、予定表の登録作業の終了を表示部16をとおして知らせる。また、ステップ2において、CPU11が、期日の経過した予定表がメモリ部14に格納されていると判断したときは、「削除」の処理が設定されている予定表があるかどうかを判定する(S7)。なければステップ10に進むが、「削除」の処理が設定されている予定表があればメモリ部14から消去し(S8)、その予定表が複数あった場合はステップ8、9の動作を繰り返してメモリ部14から順次に消去する。その処理の終了後は、ステップ10において「転送」の処理が設定されている予定表があるかどうかを判定する。この時、なければステップ13に進むが、その処理が設定されている予定表があればそれを指定ファイルに格納するためにメモリ部14から読み出しメモリカード・I/F部17を介してメモリカード18に転送し、その予定表をメモリ部14から消去する(S11)。その後は、残りの予定表の有無を判定(S12)、あればステップ11に戻って同じ動作を繰り返すが、なければステップ13に進んで「アラーム」の処理が設定されている予定表の有無を判定する。この時、その予定表がなければステップ3に進んで入力部15からの予定日時及び内容の入力を待ち、「アラーム」の処理が設定されている予定表があればメモリ部14から読み出し、それを表示部16(図5に示す)に表示する(S14)。

【0017】ここで、まず最初の予定表を選択すると、CPU11は図6に示す処理メニューを表示部16に表示する。この時、その予定表に対してaのメニューを選択したときは、CPU11は、「削除」と判断して最初の予定表をメモリ部14から消去し(S15, S16)、また、最初の予定表に対しbのメニューを選択してファイル名を指定したときは、CPU11は、「転送」と判断してその予定表をメモリ部14から読み出

し、それをメモリカード・I/F部17を介してメモリカード18に転送してその予定表をメモリ部14から消去し(S15, S17)、残りの予定表の有無を判定する(S19)。残りの予定表がなければステップ3に進むが、その予定表があった場合には表示部16に表示する(S14)。この予定表に対してcのメニューを選択して日時を指定すると、CPU11は、「保留」と判断してそれをアラーム処理(図4の6のメニュー)としてメモリ部14に格納し(S15, S18)、残りの予定表があるかどうかを判定する(S19)。該当する予定表があれば表示部16に表示し(S14)、なければステップ3に進んで入力部からの予定日時及び内容の入力を待つ。

【0018】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、電源が投入されたとき、日時の経過した予定表を入力時の設定(消去、転送又は保留等)に基づいて処理できるようになので、不要な予定表を一つ一つ消去する手間や不要な予定表を何時までも記憶手段に保存するということがなくなり、かつ、残して置きたい予定表の誤消去を防止できるという効果が得られている。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す電子手帳の概略ブロック図である。

【図2】電子手帳の外観の一例を示す図である。

【図3】予定表入力時の画面を示す図である。

【図4】予定表に対しての処理メニューの内容を示す画面図である。

【図5】アラーム処理後の予定表の一例を示す画面図である。

【図6】アラーム処理後の予定表に対しての処理メニューの内容を示す画面図である。

【図7】実施例の動作を説明するためのフローチャートである。

【図8】図7に統くフローチャートである。

【符号の説明】

11 CPU

13 時計部

14 メモリ部

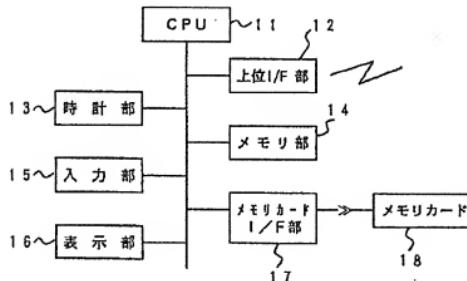
15 入力部

16 表示部

20 17 メモリカード・I/F部

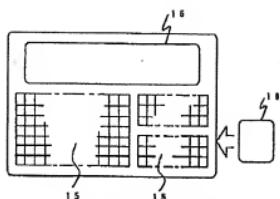
18 メモリカード

【図1】



本発明の一実施例の電子手帳の概略ブロック図

【図2】



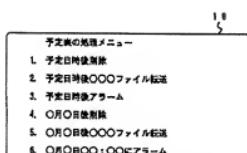
電子手帳の外観の一例を示す図

【図3】



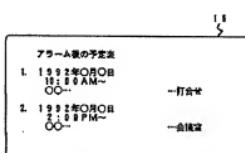
予定入力時の画面を示す図

【図4】



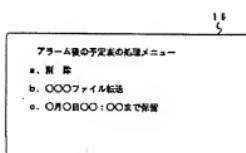
予定期の処理メニュー画面

【図5】



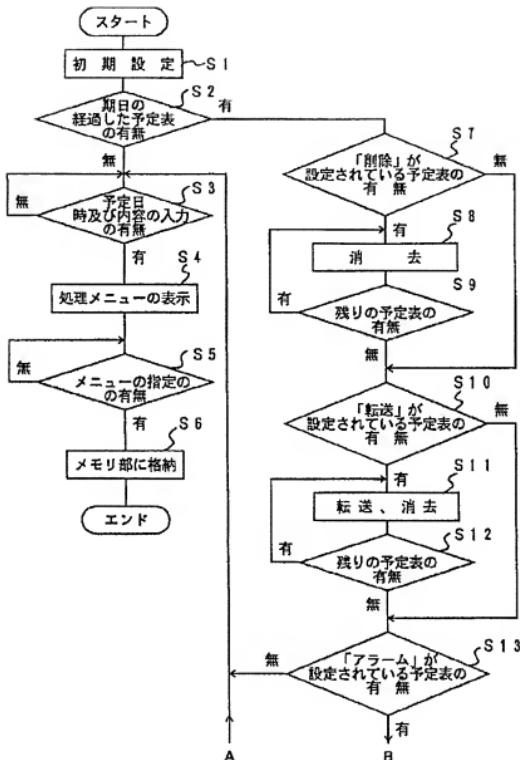
アラーム後の予定期の一例を示す画面図

【図6】



アラーム後の予定期の処理メニューの画面図

[図7]



実施例の動作を説明するためのフローチャート

[図8]

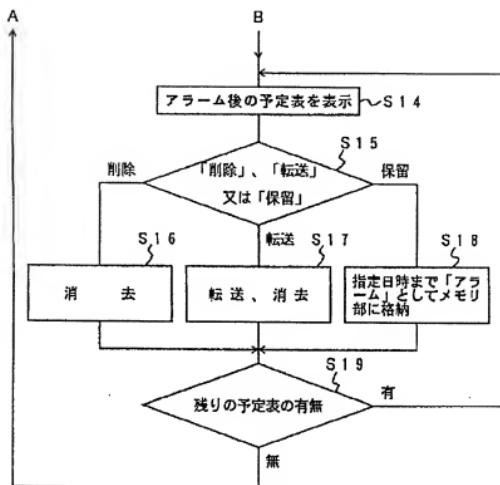


図7に統くフローチャート